Historical
巖手歴史街道

義

Rectitude or Justice

忠義

Loyalty

勇

Courage

誠

Veracity or Truthfulness

名誉

Honor

礼

Politeness

仁

Benevolence

『武士道』（新渡戸稲造著）より改変

編集：佐々木　綾
監修：中居　賢司
藤井　茂（一般財団法人新渡戸基金）

岩手の偉人

日本の大政治家（医師）

後藤 新平

海軍平次の作者

野村 胡堂

岩手医科大学 創立者

三田 俊次郎

親交

「武士道」
(Bushido: The Soul of Japan)

義 Rectitude or Justice

勇 Courage

誠 Veracity or Truthfulness

忠義 Loyalty

礼 Politeness

仁 Benevolence

名誉 Honor

日本の思想的な精神の基盤である武士道（騎士道）について
詳しく多くの国で研究されている。

新渡戸稲造

新渡戸稲造 全集

高校時代の恩師

日本赤十字社 創始者

佐野 常民

日本赤十字社9代目社長

川西 實三

日本赤十字社 現社長

近衛 忠煇

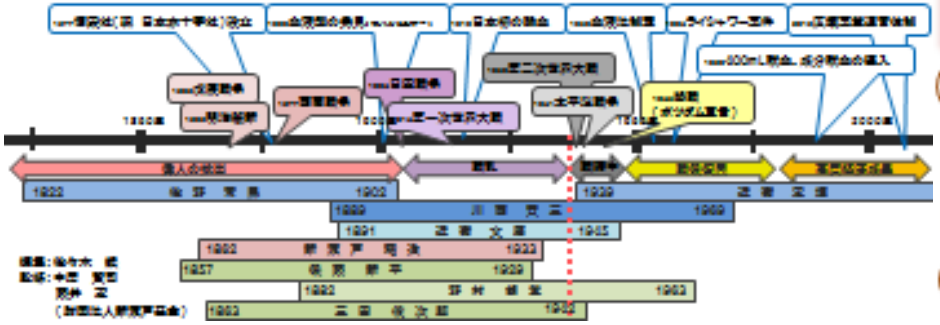
日本赤十字社 社長

先々代の天皇大使

近衛 文麿

親交

偉人が生きた時代と
日本赤十字社の歩み



①日本赤十字社の歴史

日本赤十字社 創始者

さ の つ ね た み

佐 野 常 民

・1822年（文政5）12月28日～1902年（明治35）12月7日／佐賀出身
佐賀藩士下村充賛の五男として生まれる。

・1831年（8歳） 佐賀藩医佐野常徴の養子となり、佐賀藩校・弘道館に学び、その後、
漢学、医学、蘭学、物理学、化学、外科術、冶金術、航海術、造艦術、砲術などを学ぶ。

・1867年（44歳） パリ万国博覧会に参加。
→ 赤十字展示館で初めて赤十字と出会い、感銘を受ける。

・1873年（50歳） ウィーンで開催された万国博覧会に、明治政府から派遣され参加。
→ 再び各国赤十字社の展示を見学。

・1877年（54歳） 西南の役をきっかけに、博愛社創立の許可を得る。

・1886年（63歳） 日本が万国赤十字条約に加盟。

・1887年（64歳） 博愛社を日本赤十字社と改称し、初代社長に就任。

・1888年（65歳） 磐梯山噴火災害に救護班を派遣し、国内初の平時救護活動を行う。

・1894年（71歳） 日清戦争、1900年（77歳） 義和団の乱にて戦時救護活動を行う。

・1902年（79歳） 皇族以外に例のない「名誉社員」となる。12月7日、東京の自宅で死去。

出典：Wikipedia、日本赤十字社佐賀県支部HP、
「日本の創始者　佐野常民」吉川瀧子、吉川弘文館

日本赤十字社9代目社長

かわにし　じつぞう

川西實三

・1889年（明治21）1月2日～1978年（昭和53）3月3日／兵庫県出身

・第一高等学校を卒業後、東京帝国大学に進む。

校長である新渡戸稲造に生涯、心酔する

・1920年（31歳） ILO代表者随員としてジュネーヴに駐在。

・1932年（43歳）までに内務省社会局労政課長、内務省社会局保健部長を務める。

・1936年（47歳）～1942年　埼玉県知事、長崎県知事、京都府知事、東京都知事を務める。

・1952年（63歳） 臨時医療保険審議会（強制医薬分業制度導入の是非を審議）会長となる。

・1956年（67歳） 社会保険審査会委員長となる。

・1965年2月（76歳）～1968年2月　日本赤十字社社長（9代目）を務める。

・1965年2月（76歳）～1968年4月　総理府中央防災会議委員を務める。

・1969年（80歳） 勲一等瑞宝章を賜る。

出典：「新渡戸稲造事典」佐藤全弘・藤井茂、教文館
Wikipedia

日本赤十字社　現社長

近衛（このえ）　忠輝（ただてる）

・1939年（昭和14）5月8日生まれ／東京都出身
・細川護貞（旧肥後熊本藩主細川家）と温子（近衛文麿の二女）の
　次男として生まれる。兄は細川護熙（第79代内閣総理大臣）。
・学習院大学を卒業後、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスへ留学し、国際関係論を学ぶ。
・留学先からの帰国途中に中東、アジアの紛争地を巡り、帰国後の1964年（25歳）に
　日本赤十字社に入社。甯子内親王（日本赤十字社副総裁三笠宮崇仁親王の長女）と結婚。
・外祖父の近衛文麿の長男で叔父にあたる文隆が死去し、近衛家の当主が不在となったため、
　1965年（26歳）に母の実家である近衛家の養子となる。
・1964年12月（25歳）　日本赤十字社入社外事部勤務
・1972年9月（33歳）　在ジュネーブ赤十字・赤新月社連盟勤務
・1981年4月（42歳）　在ジュネーブ赤十字・赤新月社連盟災害対策部長
・1988年8月（49歳）　同社会部長兼外事部長
・1991年4月（52歳）～2005年3月　同副社長
・1991年4月（52歳）～2005年3月　兼学校法人日本赤十字学園理事長
・1995年11月（56歳）～2003年11月　兼国際赤十字赤新月常置委員会委員
・2005年4月（66歳）～現在　日本赤十字社社長（14代目）
・2009年11月（70歳）～現在　兼国際赤十字・赤新月社連盟会長

出典：日本赤十字社HP
Wikipedia

近衛社長の祖父

元内閣総理大臣

近衛（このえ） 文麿（ふみまろ）

・1891年（明治24）10月12日～1945年（昭和20）12月16日／東京都出身

・五摂家の近衛家に長男として生まれる。（父：近衛篤麿）

・第一高等学校に進学する。　校長の新渡戸稲造に感化され入学

・1916年（25歳） 公爵として世襲である貴族院議員になる。

・1937年（46歳）～1939年　第1次近衛内閣（史上2番目の若さで首相に就任）

　1937年7月　盧溝橋事件をきっかけに日中戦争が勃発。

・1940年（49歳）～1941年　第2次近衛内閣

・1941年（50歳）～1941年　第3次近衛内閣（東條英機が次期首相）

・和平運動グループの中心人物として積極的に行動する。

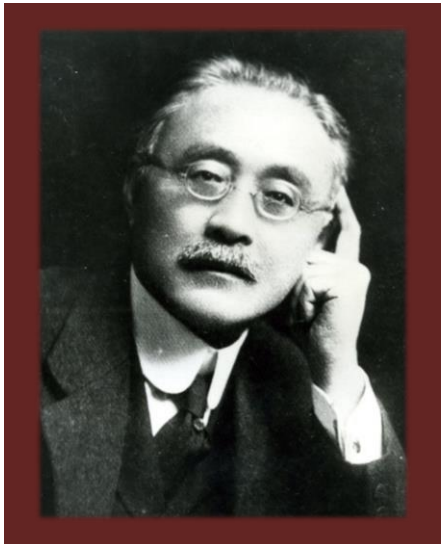
・1945年12月（54歳） 青酸カリを服毒し、自殺する。

出典：Wikipedia

②岩手県出身の偉人について

に　と　べ　い　な　ぞ　う

新渡戸 稲造



・1862年（文久2）8月8日～1933年（昭和8）10月16日
　南部藩出身（現 盛岡市）

・札幌農業学校在学中にキリスト教の洗礼を受け、卒業後に
　アメリカ、ドイツへ留学し農学、経済学などを学ぶ。

・1891年（29歳） 札幌農業学校教授となる。

・1900年（38歳） 病気療養のため渡米中に『 Bushido：The Soul of Japan 』を執筆、アメリカで出版。

・1903年（41歳） 京都帝国大学法科大学教授となる。

・1906年（44歳） 第一高等学校校長　兼　東京帝国大学農科大学教授となる。

・1918年（56歳） 東京女子大学学長となり、当時遅れていた女子教育に取り組む。

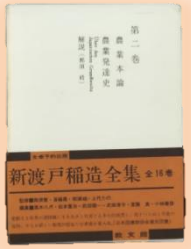
・1920年（58歳）～1926年（64歳） 国際連盟事務次長に就任。

・1933年（71歳） カナダのビクトリア市にて客死。

出典：盛岡市先人記念館HP

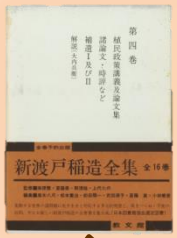
新渡戸稲造　全集

第1巻
- 武士道
- 東西相触れて

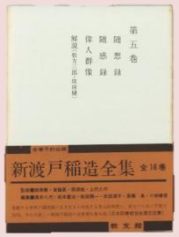


第2巻
- 農業本論
- 農業発達史

第3巻
- 米国建国要
- 建国美談

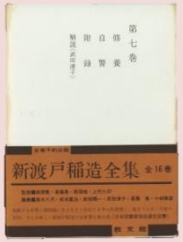


第4巻
- 植民政策抗議及論文集
- 諸論文・時評など
- 補遺Ⅰ及びⅡ

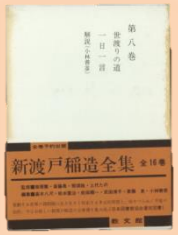


第5巻
- 随想録
- 随感録
- 偉人群像

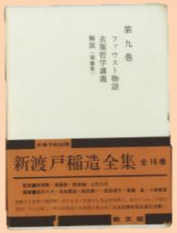
第6巻
- 帰雁の蘆
- 内観外望
- 西洋の事情と思想



第7巻
- 修養
- 自警
- 附録

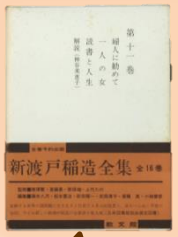


第8巻
- 世渡りの道
- 一日一言

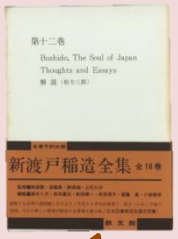


第9巻
- ファウスト物語
- 衣服哲学講義

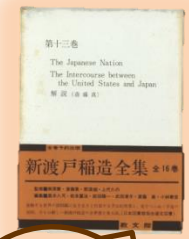
第10巻
- 人生雑感
- 人生読本



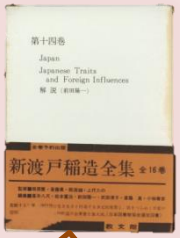
第11巻
- 婦人に勧めて
- 一人の女
- 読書と人生



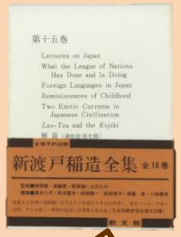
第12巻
- Bushido,The Soul of Japan
- Thoughts and Essays



第13巻
- The Japanese Nation
- The Intercourse between the United States and Japan



第14巻
- Japan
- Japanese Traits and Foreign Influences



第15巻
- Lectures on Japan
- What the League of Nations Has Done and Is Doing

第16巻
- Editorial Jottings

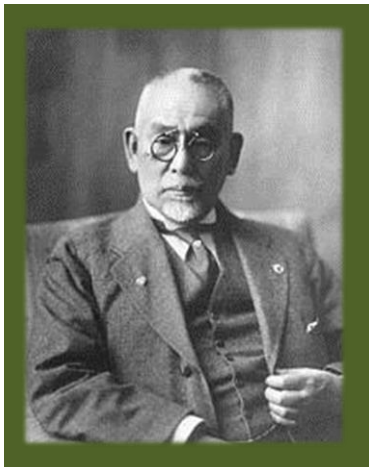
「武士道」(Bushido : The Soul of Japan)

日本の伝統的な精神的基盤である道徳教育について記し、

多くの国で翻訳されている。

日本の大政治家（医師）

後藤　新平（ごとう　しんぺい）



・1857年（安政4）6月4日～1929年（昭和4）4月13日

仙台藩　陸奥国胆沢郡鹽竈村出身（現 奥州市水沢区）

・1874年（17歳）　須賀川医学校に入学し、愛知県医学校に医師として勤務。

・1882年（25歳）　軍医の石黒忠直に認められ内務省衛生局に入る。

・1892年（35歳）　ドイツ留学中の研究成果が認められ、内務省衛生局長に就任。

・1898年（41歳）　台湾の民政長官となり、経済改革とインフラ建設を進める。

・アメリカから新渡戸稲造を招き、台湾でのサトウキビとサツマイモの普及と改良を行う。

・1908年（51歳）　関東大震災後直後、内務大臣　兼　帝都復興院総裁として震災復興計画を立案。

・1919年（62歳）　拓殖大学学長に就任。　→　新渡戸稲造が学監として、共に働く。

出典：Wikipedia

銭形平次の作者

野村　胡堂（のむら　こどう）

・1882年（昭和15）10月15日～1963年4月14日／紫波町出身

・1896年（14歳）　盛岡中学校（現 盛岡第一高等学校）入学。

→　同窓生には金田一京助、下級生には石川啄木がいた。

・1904年（22歳）　第一高等学校に入学。（校長　新渡戸稲造）

・1907年（25歳）　東京帝国大学に入学するも、学資が続かず退学。「報知新聞」を発行する報知社に入社し、人物評論や「あらえびす」の筆名でレコード評論を執筆。

有名な浄瑠璃の中の「奥州のあらえびす…」というくだりがあり、胡堂の「胡」がそのあらえびすに相当するため、この名が誕生したという

・1931年（49歳）　文藝春秋発行の「文藝春秋オール讀物號」創刊号に、銭形平次を主人公にした「金色の処女」を発表。以降、「銭形平次捕物控」は1957年まで383編を書いた。

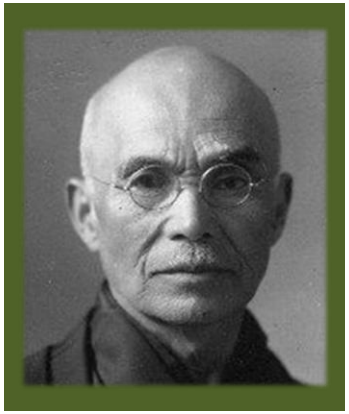
・1956年（74歳）　自らの著書を寄贈して紫波町彦部に胡堂文庫（現 紫波町公民館図書室）を設立。

・1963年（81歳）　紫波町に銭形記念図書館を設立。

出典：Wikipedia

岩手医科大学　創立者

三田（みた）　俊次郎（しゅんじろう）



・1863年（文久3）3月3日～1942年／南部藩出身（現 盛岡市）

・東京帝国大学で眼科を学ぶ。

・1897年（34歳）（明治30年）　私立岩手病院（現 岩手医科大学附属病院）を創設。

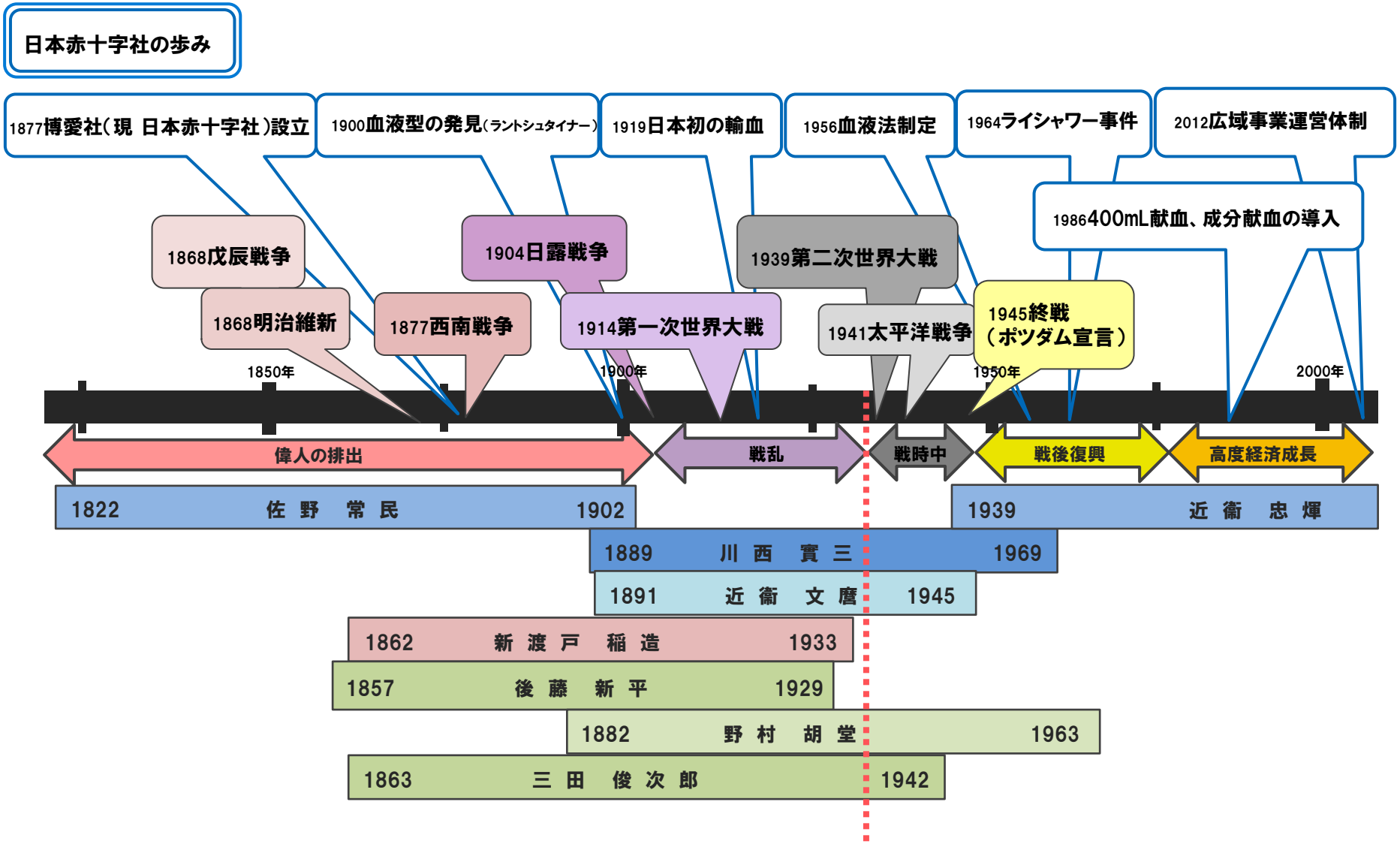
同敷地内に「医学講習所」と「産婆看護婦養成所」を併設。

・1901年（38歳）　岩手病院を実習場として、東北初の私立岩手医学校を設立。（1912年 廃校）

・1928年（65歳）　文部省の許可を得て、岩手医学専門学校（現 岩手医科大学）を設立する。

同年、新渡戸稲造が岩手病院に入院。また、年を経て、新渡戸稲造が留学した世界的医学部を持つ米国ジョンズ・ホプキンズ大学と岩手医大が、友好大学として結ばれるという縁もある。

・他にも、岩手サナトリウム（結核療養所）と岩手保養院（精神科病院）を設立。

出典：盛岡市HP、岩手医科大学HP

③偉人が生きた時代と日本赤十字社の歩み